

「孤立死」テーマに講座

遺品整理会社社長が体験談

鈴鹿

誰にも見取られず亡くなる孤立死をテーマにした公開講座「孤立死 本当の「ひとり」にならないために」

が22日午後2時から、鈴鹿市神戸地子町の市労働福祉会館で開かれる。

映画などのモデルにもなった遺品整理会社「キーパーズ」(東京)の吉田太一社長(49)の体験を交えた講演を通し、孤立死する人を出さない地域づくりについ

て考える。

同社は2002年設立。年間1500～1600件に上る依頼のうち、200～300件は孤立死した人の遺品整理だという。09年に歌手さだまさしさんが同社をモデルにした小説「アントキノイノチ」を発表し、11年には映画化された。

公開講座は、鈴鹿、亀山市のケアマネジャーでつくる鈴鹿地区介護支援専門員協会が主催する。講演では「遺品整理という仕事から見える現代社会」と題し、吉田社長が現場での体験や仕事を通じ考えたことを本音で語るといふ。

吉田社長は「家制度が崩壊し、これからは身内もない、地域社会とも隔絶した、本当に孤立した人が増えてくるのでは」と話している。

定員120人(先着順)。参加無料。質疑応答も予定している。申し込み、問い合わせは同協会事務局(059・370・3751)。